令和３年度　埼玉県校外教育協会委嘱

校外教育　研究紀要

＜研究主題＞

地域の伝統文化を学ぶことを通して、主体的に生きることのできる生徒の育成

東秩父村立東秩父中学校

埼玉県秩父郡東秩父村奥沢 150

TEL　0493-82-1211

FAX　0493-82-1261

E-mail　e-chichibu-jh@east-chichibu.ed.jp

１　はじめに

　東秩父村は埼玉県西部に位置する県内で唯一の村で、秩父盆地から山を隔てた東側にあることから名づけられた。

　総面積は 37.06 ㎞（東西 7.7 ㎞、南北 10.5 ㎞）、８割が山林で正三角形の地形をしており、 季節ごとに様々な花々が咲き誇る自然豊かな花の郷で、１年を通じて、ハイキングなど多くの人々が訪れます。また、隣接する比企郡小川町と共に、「和紙の里ひがしちちぶ」として 1300 年の歴史を持つ手漉き和紙の伝統を守り続けている。

　中でも国内産楮を原料とし伝統的製法と用具を用いて作られる強靭で丈夫な手漉き和紙”細川紙”は、その製法技術が昭和 53 年に国の重要無形文化財に指定され、 平成 26 年には「ユネスコ無形文化遺産　和紙：日本の手漉き和紙」として、岐阜県の本美濃紙、島根県の石州半紙と共に登録された。

　本校は、昭和 50 年４月に、東中学校と西中中学校が統合されて開校した村内唯一の中学校である。全校生徒は 41 名、３学級の小規模校である。

２　研究の概要

（１）研究テーマ

地域の伝統文化を学ぶことを通して、主体的に生きることのできる生徒の育成

（２）テーマ設定の理由

　地域の伝統文化や歴史を地域の方々から学ぶことを通して、故郷の歴史、伝統・文化について知り、自ら育った故郷を誇りに思い、自分に自信をもった生徒を育てる。

（３）研究のねらい

　地域の方を講師として招き、地域の伝統文化や地域の歴史について知る機会を増やし、地域のことを誇りに思い、その中で育ってきた自分にも自信をもった生徒を育成し、生徒の自己肯定感や発信力の向上を図る。

（４）研究計画

４月	生徒の意識調査の実施①
	郷土の歴史・文化について知る。体験学習のグループ分け
５月～９月	地域の方を講師に招き、体験学習
	（和紙コース・和太鼓コース・版画コース・三味線コース）
９月	卒業証書用紙の紙すき体験
	成果発表会
	生徒の意識調査の実施②
１１月	竹縄づくり体験（１年生）＜１２月に実施＞
１２月	郷土史跡めぐり（３年生）＜３月に延期＞
２月	活動のまとめ作成

３　具体的な取組

（１）総合的な学習　オリエンテーション「地域の文化を知る」（４月２８日）

　例年、地域の有識者を講師としてお招きし、地域の伝統文化や地域の歴史について講演をして頂き、そのことを通して、各コースに分れて体験学習を行う意義や目的を理解した。

（２）各コースに分かれての体験学習（５月～９月）

　地域の方を講師として、お招きし、各コースの受け入れ人数や生徒の希望を調整し、和紙コース・和太鼓コース・版画コース・三味線コースの４コースに分かれ、毎週木曜日の総合的な学習の時間を使い、体験学習を実施した。

三味線コース

和紙コース

和太鼓コース

版画コース

（３）成果発表会

　９月 18 日（土）、講師の方の前で成果発表会を行った。３年生のグループ長を中心に講師の方の紹介や成果の発表を全校生徒の前で行った。

　例年は、保護者にも公開しているが、今年度は、YouTube を用いて、保護者に限定配信をした。

（４）卒業証書用紙の紙すき体験

　和紙センターに出向き、ユネスコ無形文化遺産である細川紙の伝統工芸士の方々の指導のもと、３年生の生徒一人一人が自分の卒業証書用紙を作成した。

（５）竹縄（たかなわ）づくり体験（１年生）

竹を薄くはいで作った竹縄は古くからあったが、明治時代以降、堅牢で柔軟な高品質の竹縄は東秩父村の特産として、昭和２０年代まで山間農家の大きな収入源となっていた。昭和３０年代からナイロンロープ等の製品が普及し、竹縄の製作技術が消滅する恐れがあった。技術伝承を「東秩父村竹縄技術保存会」を中心に進めてきた。８年前から、地域の文化を学ぶ一環として、１年生が竹縄づくり体験を行っている。今年度は１２月１０日に萩平公民館で、保存会の方を講師として、竹縄づくり体験を行った。

竹を薄くはぐ「竹へぎ」、はいだ竹を芯に巻き付ける「縄より」、なわよりしたものを３本合わせてなう「縄打ち」、よりかけ機を使ってよりをかけ、表面をきれいに仕上げる「よりかけ」の４つの作業を講師の方の指導のもと行った。

「竹へぎ」

「縄より」

「縄打ち」

「よりかけ」

４　成果と課題

（１）　研究の成果

・体験学習については、新型コロナウイルスの影響で昨年度は実施できなかったが、３年生がグループリーダーとして、よりよいものを作ろうという姿勢で、積極的に講師の方々と連携をとっていた。

・発表の場面でも、グループリーダーを中心に自信をもって発表していた。

・一人一人が活躍する機会が与えられていると考える生徒の割合が増えた。
昨年度　９４％　　今年度９７％　（あてはまる・ややあてはまるの総計）
＜生徒アンケート＞

・体験したことが、将来に役立つと答えた生徒の割合は学年が進むにつれて高くなっている。　１年　３３％　　２年　４４％　　３年　４６％
＜生徒アンケート＞

（２）　今後の課題

・地域の指導者の方々が高齢化し、指導者の人材確保が厳しい状況にある。

・生徒数の減少に伴い、体験学習の人数などの改善をすることが必要である。

・新型コロナウイルスの影響で、地元の行事での発表の機会がなかったが、発信する機会を設けることができるとさらによい。